

平成 29 年度静岡大成高等学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
1 自己開発に励む生徒を育てる。物事に主体的・計画的に粘り強く取り組み、生活の充実を生み出す力を育てる。	生徒の主体性を育てるためにクラス・学年・行事・生徒会・部活動などにおいて、指導の工夫をし、一層の活性化を目指して取り組ませる。	自立した集団の一員となるよう、活動や行事の意義を理解させ、主体的行動を生み出す指導を心掛ける。	A	学年・学校行事、生徒会活動に対し、ほぼ全員の生徒が主体的に参加した。部活動については、2・3年生の自由部活の加入率が、2年生81.4%、3年生75.9%といずれも高く、多くの生徒の学校生活の柱となっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、行動するスチューデントスタッフが育ちつつあるとのこと、今後もよろしくお願ひします。 ・英語部や自然科学部を導入され、部活動の選択の幅を広げている。顧問や場所の確保等難しい問題もあると思われるが、できるだけ、生徒の希望を汲んでいけるようお願いする。 ・現在の高1・2は英検・漢検を全員受験するようにしたとのことであるが、低い級でも合格すれば自信につながり、上の級を目指すこととなる、先生も大変であるが頑張って実施してください。 ・2Pノートやマナトレ等も習慣化してきているとのこと、地道な努力をお願いしたい。
	生徒の個性や能力を発見し、指導の充実を図る。	個性に応じた指導を心掛け、生涯にわたり親しむことの出来るスポーツや文化・学び方の素地を育てる。	B	一人一人の生徒の希望を尊重し、生徒の活動をサポートした。	A	
	計画性を持って資格取得に励み、挑戦する意欲や、物事をやり抜く力を育てる。	学習・行事・委員会活動・部活動・資格などへの目標や意義を理解させ、達成への助言を心掛ける。	A	特に、基礎学力の定着、委員会活動、検定の取得において、欠課の分析、生徒主体の取り組み、次の目標の設定を的確に行い、生徒の意識的な取り組みをサポートした。	A	
	「朝読書」・「マナトレ」・「2Pノート」への主体的取り組みを目指し、自学自習力を強める。	学校としての統一した指導を心掛け、学習習慣や自学自習を養う手助けをする。	A	年間を通して指導した。生徒が落ち着いた学校生活を送り、基礎学力を身につけることにつながっている。	A	
2 けじめのある生徒を育てる。時間を有効的に活用し、より充実した学校生活を送らせ、進路実現に努める。	基本的生活習慣を確立させ、「やるべきこと・守るべきこと」が実行できる生徒を育てる。	責任ある社会人の育成をめざし、決められたことや約束事が実行できる姿勢を育てる。(ルールの遵守・授業時の態度・提出物の期限厳守・係りとしての責任感等)	A	校内全体としては、落ち着いた学校生活を送っている。ルーズな生徒や不安定な生徒には日ごろから話しかけに努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導については、ここ数年間劇的に減しており、穏やかで落ち着いた学校になっている。先生方の努力の賜物であると考える。 ・SNSやLINEについては、インターネット安全教室やネットパトロールを行っているとのこと、また、来年度からは、ネット依存度テストにも取り組むとのこと、親も心配していることだと思う。成果を期待する。 ・学校での携帯の取扱いについては、学校がどこまで責任を持てるのか考えるべきだと思う。保護者にも責任があることを保護者に訴えていくのもいいと思う。保護者とも連携を取りながら、学校として一つの方針を出されるといいと思われる。
	授業規律を整え、落ち着いた学びの環境を作る。	チャイムで始まる授業、机上や身の回りの整理整頓、授業開始・修了の挨拶などに意識的に取り組む。	A	授業開始時間の遅れや教室の整理整頓の不備が見られた。	A	
	規範意識を高め、社会や家庭、学校のルールの遵守を心掛け、反社会的行為の未然防止に努める。	安心・安全に生活するルールを生徒・教員・家庭が理解し、信頼関係を築く。自らも社会や職場のルールを厳守する。	A	保護者との連絡は日頃綿密に行っている。職場のルールは厳守できていない。	A	
	SNSやLINEなどを利用した情報伝達方法のマナー指導	インターネット安全教室を利用しながら、日常的に安全な使用方法についての指導をし理解を深める。	B	日々進歩するSNS環境に対応することの難しさを感じている。来年度は、ネット依存度を調査する新しい取り組みを行い、個々の生徒への指導を進めていく。	B	
心身の健康管理、規則正しい生活習慣の確立を目指し、欠席・遅刻・早退を安易にさせない。	「心身の健康は正しい生活習慣から」を意識させ遅刻・欠席・早退を安易に認めず、積極的、意欲的に学校生活に取り組む力を育てる。必要に応じてカウンセラーの援助を受ける。	A	多くの生徒は落ち着いた生活を送っているが、家庭環境や友人関係における問題等で、不安定な生活を送り、改善までに時間がかかる生徒もいる。	A		

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

3 礼節を尊び敬愛と感謝の心を育てる。相手を敬い感謝する態度や社会に奉仕する心を養う	登下校時、授業時、校内でのマナーアップを心掛けさせる。	登下校時・授業時・校内での過ごし方など基本的なマナーを常に教え導く。	A	学校前の歩道にたまっていたことで注意を受けた。たびたびではなかったがなくなるよう心掛けたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> マナーについても、最近は電車やバスでの苦情が減少している。先生方に感謝したい。 行事の時は褒められることが多いが、普段の学校生活に対して生徒に関する苦情が少ないとは言えない。注意された状況、注意した人の言い方にもよるが生徒が自然に謝罪の言葉が出るような雰囲気づくりも必要と思う。地道な努力をお願いしたい。 挨拶に関しては、学校に用事があって来る場合も爽やかで明るい挨拶をしてきてととてもいいと思う オープンスクール等にステューデントスタッフが積極的に参加している。生徒が率先して学校行事に参加することは自主性の醸成にも繋がる。是非続けてもらいたい。
	挨拶や返事の出来る生徒、品位ある服装や容姿を心掛けさせ、人の話を聞く姿勢の確立を図る。	挨拶。服装容疑、立ち居振る舞い、コミュニケーション力を心掛けさせ、社会から評価を受ける大成の生徒を育てる。	A	校内でのあいさつはかなりできる生徒が増えた。来校した外部の方や保護者などへの対応をさらに良くしていきたい。	A	
	部活動や学校行事などを通し、集団への帰属意識を育て、規律や礼儀を重んじる姿勢を育てる。	集団の一員として責任感を育てると共に仲間と力を合わせて作り上げる協調性を育てる。	A	部活動によって実行できているかどうか温度差があるので、さらに指導していきたい。	A	
	清掃活動や身の回りの整理整頓を通して、物を大切に作る心、感謝の心、社会に奉仕する心を育てる。	清掃活動やボランティア活動を通して、社会に奉仕する心や物を大切に作る心を育てる。	A	多くの生徒が自ら進んで活動するレベルまで上げていきたい。	A	
	生命尊重や思いやりの心を大切に、多くの人と共に自分がある事への感謝の気持ちを養い、協調性やコミュニケーション力の豊かな生徒を育てる。	いのちの重さを理解させると共に周囲の人々に支えられて生活していることへの感謝の念を育てる。多様な仲間の考えや立場を理解し相手に配慮できる心を育てる。	B	私たち大人でもこのような気持ちを持つことは難しいことであるが、生涯追い求めていくことである。	B	
4 生徒の能力と適性が生かせる進路実現。	<p>第1学年は生涯教育やキャリア教育に基づき自己の適性や将来の希望を生かした進路実現計画を考えさせる。また2学年以降の選択科目について適切なアドバイスに努める。</p> <p>第2学年は外部の進路説明会やオープンキャンパス等への積極的な参加を促し進路目標を明確化させその実現に向けた指導をする。</p> <p>第3学年は目標達成のため、最大限の能力を発揮させ進路実現・自己実現を図る。また進路情報や知識の習得に努め生徒や保護者に的確な情報を伝え、進路実現に向けた支援体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の進路指導の流れを理解、熟知し、生徒の個性や適性を生かした進路指導を考える。 2年次以降の選択科目については一人一人の進路を確認し、適切なアドバイスをする。 早い時期から外部の進路説明会やオープンキャンパス等への参加を促し、進路意識を育て目標を持った学校生活を送らせる。 生徒・保護者との信頼関係を築くと共に面接等の話し合いを繰り返し、意思の疎通を十分に図り納得できる進路決定に至るよう努める。 進路に関する情報を共有し問題点は学年でよく話し合い進路部と連携して指導にあたる。 将来の目標や進路を見通した中で必要な資格に挑戦させ計画的に取り組む意欲を育てる。 進路開拓に必要な補習や小論文講座の内容の充実を心掛けて計画する。 	B	3年間の進路指導の見直しを検討している。新教育課程に合った指導計画を作成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も、進路指導、就職指導には、進学及び就職について補習や面接等を繰り返し実施しているとのことであり、今後ともよろしくお願ひしたい。 進路選択に当たり、進学に係る費用や奨学金の有り様について、保護者はもちろん、生徒にも理解させる機会が必要ではないか。 本年度も昨年度に引き続き、文部科学省の新学習指導要領等の動向を勘案しながら、本校の特色である総合選択制のあり様を論議しているとのことであるが、今後も、より良い方向性を模索してもらいたい。 英語、国語、情報、福祉等と関連ある資格取得に挑戦させているとのこと、創意工夫をしてチャレンジさせてください。

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

5 教育力の向上に 努め、信頼される 学校作り。	研究授業・公開授業に積極的に取り組み 〔主体的・対話的・深い学び〕を意識し た指導方法について若手教員のみならず 全教員が研修をつみ授業力・学校力を向 上させる。	校内での研究授業・公開授業や外部の研修会に積極的に参 加し、自己研修に積極的に励み、指導方法や授業形態の工 夫を図り、授業の質の向上に努める。 授業の目標を明確にし、わかる授業を心掛け学びの楽しさ を感じる事の出来る生徒を育てる。 AL や ICT 機器を積極的に活用し、双方向型を意識した授 業に取り組み、生徒の学習意欲を向上させる。	B	アクティブラーニングや ICT 機器を使った授業に積極的に 取り組む教員が増えてきている。この夏に、全教室にプロジ ェクターを設置したことでその動きが加速したようである。こ れからさらに進めていく分野である。	B	<ul style="list-style-type: none"> 補助金等を活用し、各教室にプロジェクターが設置 されるとともに、校内 LAN も整備され、アクティブ ラーニングや ICT を活用した授業への環境が整備さ れた。是非、積極的に活用し、創意工夫した授業の 展開を期待する。一部教員の活用に留まることの無 いよう、十分学校内での活用をお願いしたい。 また、ここ数年、教員にタブレット等の活用力及び 授業への応用力を醸成してきたとのことであるが、 来年度は教員のパソコンの更新も控えているとのこ と、是非、ICT 機器間の有機的な活用をお願いする。 授業評価アンケートは主観的と言われるが、比較対 照が多くなると客観的な状況が見えると聞く。昨年 度から容易に授業評価ができるよう、マークシート 方式からパソコン入力方式に変更されたことでもあ り、授業改善等により一層役立ててもらいたい。 システムに慣れてきたこと、また成績処理につい てはダブルチェック体制をとっていることもあり、最 近はミスは極端に減少しているとのこと。間違いは あってはならないものであり、是非、より一層慎重 、丁寧をお願いしたい。 5段階評定換算表の問題も、単位取得と進級、卒業 との関係も、今後、検討する必要があると考える。
	生徒による授業評価を真摯に受け止め改 善を心掛け質の向上を図る。	生徒の声を真摯に受け止め、自分の授業を振り返り質の向 上を目指して常に努力する。	A	教員一人一人の意識の向上によるところなので、それを高 めることが課題である。	A	
	生徒の変化（学習面・生活面）に気を配 ると共に情報の共有を心掛ける。	授業態度や課題の提出内容等から生徒の生活の変化の表 れを各担当者と連絡を取り合い共有する。	A	クラス、授業での生徒の様子について、授業担当者、クラス 担任、学年主任で連絡を取り合い生徒に対応している。	A	
	ICT 授業や AL に進んで取り組み深い学 習を心掛ける。	学習に対する興味・関心度が高まり、深い学習に繋がる手 段としての ICT 活用や AL となるよう工夫に努める。	B	上記にも書いたように現在取り組んでいるところである。	B	
	シラバスの充実に努め授業内容や評価に ついて改善を図る。	シラバスや指導計画表を利用して授業の進行、学習内容、 学習の進捗等を確認し、同一教科担当者間で内容や評価に 不公平感が生じないように努める。	A	担当者同士で連絡を取り合い授業の進捗等の調整を取り ながら授業を進めている。	A	
	校務電子化に伴いデータ入力は慎重か つ正確さを心掛ける。	個人情報の入力に当たっては緊張感を持ち正確さを徹底 し、責任を持って事に当たる。	A	作業に慣れてきたことやシステムが落ち着いてきたこともあ り、入力ミスがほぼなくなった。今後も緊張感を持っていき たい。	A	
	教務内規の「5 段階評定換算表」の意義 をよく理解し、より良い評価を目指し積 極的に取り組む。	教務によって示される換算表が生徒により良く反映され るよう、教科間での話し合いを十分に持ち指導に当たる。	A	高い評定に反映されるような結果が出ていないところもあ る。問題のレベルを下げないで良い結果を出すための努力 をしていく必要がある。	A	
	教務内規の徹底と個に応じた指導を心掛 け単位修得への支援を徹底する。	一人ひとりの生徒の学習状況をよく把握し、単位未修得に ならぬよう、必要な生徒に必要な時、必要な指導をする。	A	学力の低い生徒に対しては、本人に最後まで努力させるよ う、きめ細かく指導している。	A	
6 安心安全な学校、 開かれた学校。	ホームページ等を利用し、保護者・卒業 生・受験生が必要な情報や生徒の活動報 告などを効果的に外部に発信し全職員が 力を合わせて積極的広報活動を進める。	情報を提供する者、それを外部に発信する者がそれぞれの 立場で本校の魅力を外に向けて PR 出来るよう、広報活 動においては全職員で取り組む。	B	何をアピールするかをより明確にし、積極的に発信するよ うさらに努力していかなければならない。自分には関係ない という気持ちを持つ教員はなくしたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 異文化を体験することは、視野を広め、人生を深め ることであり、是非、積極的に交流を広めてもら いたい。 地域交流講座等を実施するとともに、地元の自治会 と連携を密にされている。継続してもらいたい。 生徒募集のため、教員全員が広報部員であるという 意識の下に、説明会や校外での活動等を実践してい るとのこと、頑張ってもらいたい。 学園が一体的に機能して行くことが望ましいので、静 岡福祉大学との連携について、是非、よろしくお願 いしたい。
	国際理解教育を進めると共に本校の行事 を利用し視野の広い生徒を育てる。	異文化を体験できる機会を上手に捉え多様なものの見方、 考え方の出来る生徒を育成する。	B	進学選抜クラスや英語部などでは、外国の留学生を招き交 流を進めている。	B	
	教育相談の充実を図り、いじめの早期発 見や予防に努める。	いじめアンケートのみならず普段から生徒の様子を気遣 い、人間関係を細かく把握できるよう細心の注意を払うと 共に他の教員と内容を共有する。	A	クラス担任が注意して生徒の様子を見ており、現在深刻な 問題に至っていないものはない。	A	
	教育環境、施設設備や器具の定期的な点 検を心掛ける。	地震や災害だけでなく普段の生活においても安全を意識 し、事故を誘発することの無い環境づくりを図る。	A	防災点検を定期的に行っている。	A	
	PTA 行事や地域交流などに積極的に参 加し本校の教育の姿勢を示す。	PTA 活動や地域交流には積極的に関わり、本校としての取 組みを理解してもらおう機会とする。	B	教員の PTA 活動や地域交流に関わろうという気持ちに温 度差があるのが現状である。いろいろな関りを通して、保護 者とのコミュニケーションをとっていきたい。	B	
	学園間の連携を心掛け相互の発展に努め る。	大学や幼稚園との連携を深めるよう積極的に情報を集め お互いの発展に努める。	B	まだ意識が低いため、体系的に進めていかなければなら ない。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった